



ヒメイタビ	<i>Ficus thunbergii</i> Maxim.	絶滅危惧 I 類
		クワ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	茎から根を出して他のものによじのぼる常緑の蔓性の低木。幹の上部は斜上し、よく分枝する。葉は互生、長楕円状披針形～広披針形で、全縁、革質。花期は夏。葉腋に径10-12mmの球形の花囊を1-2個つける。	
生態的特徴	暖地の林内に生え、岩面や他の植物の樹幹に付着してよじのぼる。	
分布状況	千葉県以西の本州から琉球に分布する。県内では県南の南西部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の1地域に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する場合は、生育場所を特定できないことのないよう配慮することが必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 木本 I」平凡社(1989)	

文責: 佐藤和良